

学校行事の中止で、子どもたちの楽しみは減るのでは？

セミの鳴き声が響き、会う人ごとに「暑いですね」と言葉を交わす季節になりました。プールで泳いだ子どもたちが「楽しかったあ」と笑顔で話す日が続いています。



さて、先日、「バザー・餅つき大会の中止について」のプリントを配布いたしました。新型コロナウイルスの対策の一環として、また、学校行事の見直しとしての結論ですが、その後、「子どもたちの楽しみが減るのでは？」というご心配の声がありました。その点についてお答えします。

Q:バザーを楽しみにしていた子どもたちがいるのでは？

楽しみにしていた子どもたちはもちろんいます。保護者の方が準備してくださったということも子どもたちの「遊びたい」などの意欲へとつながっていたと思います。

バザーは子どもたちにとっては「学びの場」です。バザーのような学校行事をとおして、子どもたちは、意思表示をする、ゲームを選択する、お金を払う、係の人とやり取りをする、順番を待つなど、たくさんのことを学んでいきます。このような学びが引き続き行えるように、以下のような活動を、今後検討していきたいと考えています。

【例】

① 大分駅でお昼ご飯を買おう

大分駅のフードコートを利用する学習です。たくさんの店舗の看板やメニューから食べたいものを選ぶ、教師に告げる、お店に並んで待つ、店員さんに食べたいものを伝える、お金を払うなどの内容を学ぶ機会になります。

コロナの感染状況によっては、持ち帰って食べるなどを検討します。

② パターゴルフやボウリングなどのゲームを選んで遊ぼう

アミューズメント施設を利用する学習です。無料バスの時刻を調べる、バス停までの時間を予測して日程を組む、お金を払う、たくさんのゲームから選択する、お店の人とやり取りをするなどの内容を学ぶ機会になります。

今後、学びの場を学校外に設定しますが、子どもたちが楽しんで学ぶことができる場を選択します。

